

日本精線株式会社 2024年度第2四半期(中間期)決算説明会 質疑応答(要旨)

開催日 2024年11月28日(木)
出席者 代表取締役社長 利光 一浩
取締役常務執行役員 高橋 一朗
執行役員 木寅 潤一

Q. 中国の太陽光パネルの生産量が減少した場合、極細線販売への影響(リスク)をどのように認識しているか。

A. ■中国での太陽光パネル生産において、足元の需要以上の過剰供給が在庫調整を惹き起こすリスクを認識している。
■ただ、発電効率の高いパネルに対する市場ニーズは強く、その製造プロセスに必要な「より細く、より精密な」極細線に対する需要は引き続きあると考えている。

Q. 米国新政権による関税引き上げの影響があれば教えて欲しい。

A. ■ステンレス鋼線の場合、直接米国に輸出する数量は限定的。ただ、自動車関連用途として使用されており、間接的にマイナス影響が出る可能性はある。
■超精密ガスフィルターについては、米国に直接および間接的に輸出されている。関税以外にも、半導体関連は米中関係が影響するため、その動向を今後とも注視していく。

Q. 金属繊維関係が上期好調だった要因について、外部環境を踏まえて教えて欲しい。

A. ■ナスロンフィルターについては、高機能フィルム用途が中国市場で好調に推移したことが主な要因。
■半導体製造装置向けの超精密ガスフィルターについては、本格的な回復には至っていないが、底堅く推移した。

Q. 高機能・独自製品の来期以降の見通しは。

A. ■中期経営計画(NSG26)では、高機能・独自製品の売上高の絶対額を前中期経営計画期間の平均比より約20%アップさせるため、サステナビリティ成長分野をターゲットとした販売、設備投資、研究開発などに注力している。
■詳細な数字は差し控えさせて頂く。

Q. 展示会への出展により、欧米経済圏での顧客が増えている感触はあるか。

A. ■当社では、国内のみならず海外で開催される展示会にも積極的に出展している。
■ドイツワイヤーショーやセミコンウエストに出席した際に、当社ブースへお越しになるお客様が増えているのを実感した。

Q. 足元の業績は好調と素直に受け止めているが、あえてリスクをあげるとすれば？

A. ■前述した米国のトランプ新政権による輸入関税引き上げに伴うリスクのほか、米中対立や中国経済低迷の長期化をリスクとして認識している。
■日本国内よりも米国、中国などの経済動向がリスクとしては影響が大きい。

Q：中期経営計画を前倒しで達成することが視野に入った場合、計画数値をローリングアップする可能性はあるか？

A：■初年度の業績は上方修正したが、リスク要因も増えており先行きの不透明感が増しているため、中期経営計画の目標値を引き上げることは考えていない。

以 上

本資料に記述されております業績見通し等の数値や情報につきましては、現状で判断しうる一定の前提に基づいております。

今後発生する状況の変化によっては異なる業績結果となることも予想されますので、投資等の判断材料として全面的に依拠されることは差し控えていただきますようお願いいたします。また今後予告なしに予想数字が変更されることがあります。本資料にある情報をいかなる目的で使用される場合におきましても、各自の判断と責任において使用されるものであり、本資料にある情報の使用による結果について、弊社は何らの責任を負うものではありませんのでご了承ください。